

モデル事業名	ものづくりの里レボリューション事業
活動団体名	くず さとかんこうきょうかい 国栖の里観光協会
ホームページ	http://www.kuzunosato.jp
所属/担当者名	エッチング幸房 ソ・レイユ 吉田昌行
連絡先	TEL 0746-36-9860 info@kuzunosato.com
活動地域	奈良県吉野郡吉野町国栖地域（ならけんよしのぐんよしのちょうくずちいき）
<p>● 活動地域の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落数6ヶ大字（南国栖・国栖・新子・窪垣内・南大野・入野） 人口（平成21年11月） 総計449世帯1,184名 高齢化率（毎年度末） 平成10年 29.86% 平成15年 34.14% 平成20年 40.07% 公共交通に関する状況 奈良交通 路線バス 1日4往復（川上村湯盛温泉～大和八木） 吉野町コミュニティーバス 1日5往復（国栖地区～町立吉野病院）平日および土曜日の病院診療日のみ運行 <p>【位置図】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>【活性化が進むものづくりの里】</p> <p>● 活動地域の課題</p> <p>当地区内では、割り箸製造や和紙製造など殆どが家内工業的な職種であり、かつ割り箸や和紙は輸入品や洋紙などの影響で生産高も減少の一途を辿っているため後継者も限定的で雇用先を求め、若者が流出して定住させることは困難であります。その結果従業者も高齢化している。また地域の住民も最盛期には、3,213人であったが現在では1,223人と1/3に大幅に減少している現状の中でいかに活性化を図っていくかが最大の課題であります。</p> <p>地域住民に観光協会の活動が割り箸や和紙をはじめとする「ものづくり」という媒体を通じて活性化を図っていることを理解してもらい、国栖人（くずびと）である誇りを取り戻し地域の愛着を深め、伝統文化を守り伝えていく心をそだてていく必要がある。</p> <p>● 活動の内容（平成20年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域資源の調査および地域活性化の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・空き屋状況の調査・郷土料理の検討・工房の商品開発等 ・モデル地域への視察研修 ○ウォーキングコースの策定 ○ホームページの作成 ○地域づくりサポーターの募集 ○ものづくり体験の実施 <p>平成21年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史・文化の発掘とコミュニティー（ガイドブックの作成） ○ものづくりを通じた滞在型モニターの実施 ○ウォーキングコースの活用 ○国栖の素材を生かした「灯り」の調査研究 	

● 活動の成果

・平成20年度

本事業の開始当初は、観光協会の発足は平成17年で発足後活動期間が4年と短く、かつ協会員は「ものづくりの工房」が中心となっているために地域内での観光協会の存在の認識が薄くその認知度を向上させるために地域内では各大字の自治会長を、また地域外からは大阪芸術大学のイナカデザイン研究会をはじめとする大学生に「地域づくりサポーター」として協力を得て「ものづくり」を通じて、地域内外にアピールした。

我々が見過ごしている観光資源や空き屋状況の調査に際して地域内でヒヤリングを行いながらこの事業の目的が地域の活性化であることを説明し、その認識を向上してもらえるよう基盤づくりをした。なお廃校となった校舎を活用して「国栖の歴史」の講演と「ものづくり体験」とを実施した結果地元住民の参加も多く関心も高かった。

更に、ホームページをUPして自然に恵まれた国栖をPRしたところ、地域外からはもちろん、地域内からも関心があり今後の協会の活動の力となり活性化に向けて貢献している。



HP開設



廃校舎で工房体験開催

● 平成21年度

昨年の結果を踏まえて活性化の基盤を充実させるために地元では「当たり前」となって見過ごしている「歴史・文化の発掘調査」を行い、「国栖の素朴さ」の主なものを掲載した「ガイドブック」を作成し同様の内容をHPにも順次UPする。また、当地区では、宿泊施設がなく滞在型の観光が難しいために、吉野山の旅館組合と連携をして「宿泊型のものづくりモニターツアー」を実施し、参加者からのアンケート結果では「斬新なアイデア」や「体験メニューの増加を望む」など数多くの意見が寄せられ今後の参考となった。

前年策定した「ウォーキングコース」の活用では地場産業である紙すきを題材にした講演とハイキングを講師に招いて「歴史ウォーク」を実施したところ多方面から約150名の参加があり新たな国栖の良さの発見があり、リピーターの基盤作りとなった。

国栖の素材を生かした「灯り」の調査研究では地元住人の参加型で持続性のある風物詩として展開できるよう策定中である。



歴史ウォーク



歴史ウォーク講師説明



里灯り試作品展示



体験と宿泊モニター

● 今後の課題及び展望

・課題

この活動をするまでは、観光協会と地元の諸団体はじめ地域外の組織等との交流は少なかったが、この各事業を展開していくなかで他組織（「地元自治会」「地元老人会」「工房街道推進協議会」「大阪芸術大学イナカデザイン研究会」等々）との交流も深まり、各団体から現状の国栖の魅力を高く評価していただき活動に対してもご支援をいただいた。

今後はこの絆を更に深めて「ものづくり」を中心に地域が一丸となって「田舎イコール自然の良さ」を表面に出して「地場産業の発展」と「地元の昔ながらの素朴な素材を生かした観光資源の掘り起こし」の切っ掛けとなった。

・展望

地元から自信を持って『「ええとこ」国栖』を発信できるように各団体の協力を得ながら観光協会がリードし、「ものづくり」だけでなく地元の方々に何らかのメリットがある事業を展開したい。そのためには地元民全員が肩を張らずに活性化に参画できる活動を行う。その一環として今年度に調査している「灯りづくり」を老若男女問わず制作してもらって、その作品を盆踊りや花火大会等の会場で展示する。

将来は、国栖の風物詩として話題性のあるものにした。

最後にこのモデル事業を展開させていただいたことで地元の良さを認識し、さらには地元内での活性化に向けて意識づくりの基盤となったことは、観光協会としての目的の大きな力となり協会員一同感謝しております。